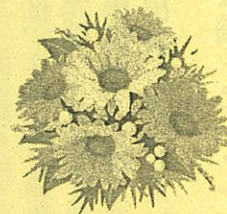


小島地区ふれあいセンターだより



令和6年10月 第412号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



10月の行事予定

※毎週月曜日は休所日です。

開催日	行事名	
1日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
2日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
4日(金)	子育て教室	午前10時～11時30分
8日(火)	小島中学校区青少年育成協議会	
11日(金)	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
16日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
25日(金)	小島地区連合自治会連絡会議	
26日(土)	秋の園芸教室	午前10時～12時
	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～12時

【お知らせ】

「秋の園芸教室」(主催講座)開催の御案内

日時 10月26日(土) 午前10時～12時
場所 小島地区ふれあいセンター 1階 図書室
内容 秋の花の「寄せ植え」を楽しく学びます。
(※ 持ってきていただく物 軍手、エプロン)
講師 沖迫 司 先生(フラワーおきさこ代表)
受講料 無料
定員 25名(先着順)
申込先 小島地区ふれあいセンター(電話826-7703)
申込方法 直接来所、又は、電話によるお申込み
(午前10時～午後4時30分、月曜日を除く)
申込日 10月1日(火)～10月24日(木)



皆様のご参加をお待ちしています!!

出島⑦

○カピタン部屋

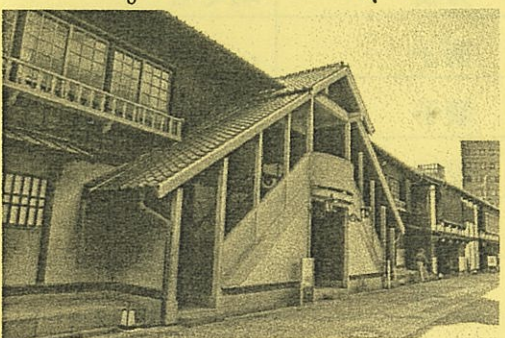
・ 商館長のことを、日本ではカピタンと呼んでいました。(ポルトガル語が語源) このカピタン部屋は非常に大きな建築物で、商館長の住まいであると同時に、商館事務所やお客をもてなす場としての機能を持つ、出島を代表する建物でした。1階は、商館長の食料と物品の倉庫で、中央に通り返けの土間があります。2階へは屋根付きの外階段で二方向から入室できる形で、特徴ある建物となっています。2階に登ると広い玄関があり、右手の部屋(17.5畳の間)は商館長の引継ぎを行なったときの机の配置を再現しています。(椅子・家具類・備品類はオランダのアンティーク品を調達) 左手の部屋(15畳の間)は商館長の江戸参府のお土産の時計等を展示しており、当時のアンティーク家具などを調達したものを配置しています。その中の長椅子は「テイツイアの長椅子」といわれます。

※1817年7月ブロンホフが妻のテイツイアと子のジョンや乳母・召使を同伴して商館長として着任しました。幕府は女性の出入りを拒みましたが、特例として16週間の出島滞在を認め、同年12月前任者のドーフと共にオランダへ帰国しています。

※町の絵師たちはこの滞在期間に、こぞって彼女を題材に絵を描き、または人形を製作するなどしました。部屋で家族揃って絵画に収まったときの長椅子が「テイツイアの長椅子」です。

カピタン部屋

・ 玄関の大広間
全て畳敷きになっています。当時はこの上をオランダ人は靴のまま歩いていました。この大広間は、商館員たちの憩いの場として、ビリヤードなど行なっていました。次の大広間には、オランダ商館員のクリスマス(オランダ冬至)料理が並べられています。禁教令の為、さすがにクリスマスとの言葉が使えず、冬至の祝いとしていたようです。豚の頭の丸焼きは北ヨーロッパのクリスマス料理で、口にリンゴを咥えているのが特徴で、ポアーズヘッドと言います。中華料理の豚の丸焼きとは違うようです。次は出島⑧



出島⑧

・ 次の部屋は、床が吹き抜けとなった、涼み部屋です。オランダ人には日本の夏は暑かったでしょう。その他、商館員の歓談場、カピタンの寝室、女中部屋などが再現されています。

○乙名部屋(おとなべや) カピタン部屋の裏手です。

出島に出入りする日本人役人の詰所。日本側で出島の管理実務を一手に担ったのが、長崎奉行が長崎の有力町人から選任した出島乙名です。

・ 出島乙名は貿易事務を行なうと共に、商館員の監視役でもありました。

・ 出島乙名や阿蘭陀通詞など、日本人役人の詰所となっていたのが、この乙名部屋です。

・ 貿易期間中(夏から秋)のみ使われる建物です。2階部分は乙名の住居として使用されます。

○青銅製の大砲。浦上川から引き上げた大砲。VOCにA(アムステルダム)が付いています。

○料理部屋

・ 出島商館員は、昼夕にカピタン部屋で食事することが習慣でした。

・ ここは、オランダ人が費用を負担して建てた数少ない建物の一つです。

・ 調理はオランダ人と東南アジアの人々、日本人の使用人が行い、肉や野菜で入手が難しいものは、出島の中で自給していました。

・ 調理用材料は、クリスマス料理を作るための材料が再現されています。

○ヘトル部屋。ヘトルとは、次席商館長の呼称です。2階がその住まいでした。

・ 日本人の使用人も2階の一部を使い、1階は東南アジアの使用人たち

が使用した他、商館の食料を貯蔵し、屋上には物見台が作られています。

・ 物見台の上での浮世絵(川原慶賀)が残されています。商館長が遠眼鏡で入港するオランダ船を覗き、その側にシーボルトが何かを話しかけています。側には、子供おイネを抱く母がたまたみみす。

・ 出島の復元は、まだ続きます。建物は一部を除き、ほぼ完成しましたが、これからは出島を昔の様な島に戻す工事が行なわれると言われます。

島になった出島も見てみたいですね。

出島 終わります。

流刑地としての五島 (七)

・ 元禄十四年(一七〇一) 深堀騒動事件
元禄十三年十二月十九日、大音寺で深堀家の家臣、深堀三右衛門(六十九歳)と柴原武右衛門(五十九歳)の二人が長崎の町年寄 高木彦右衛門の仲間との間で争いがあった。

これが発端となり、深堀方は三右衛門、武右衛門を中心に総勢二十一人が浜町の高木家へ討入りという大事件となった。

原因は、たまたま通りかかった三右衛門らを高木家の仲間が些細な事から口汚くののしつたからである。

この背景には、長崎における町年寄は経済的に潤い、その権勢と威光は絶大なものであった。これをかさにきて使用人たちも横柄な振舞いがあった。このような高姿勢に対して深堀方に実行を行使させた訳である。

彦右衛門は打たれて死亡、嫡子 彦八は、のち捕まって所払いとなったが、深堀方は三右衛門、武右衛門が切腹、加勢の武士十人が切腹、同九人が五島に流罪となった。

切腹の十人は、深堀嘉右衛門、深堀庄三左衛門、柴原清右衛門、喜多左左衛門、高浜助右衛門、高浜嘉左衛門、宇都宮只之丞、宇都宮五右衛門、荒木権内、平与左衛門である。

元禄十四年三月二十七日七ツ時、長崎大波止より船二艘(船頭樺島町 松崎伊右衛門、本五島町 伊勢権兵)に九人乗せ、同二十七日着き、大庄屋宅に入る。

流刑地としての五島 (八)

福江藩家老 白浜久太夫は、書院にて一行に対して鄭重な挨拶を述べ、以後、領内に散在するが扱いは寛大とした。

武士に対する町人の無礼、流罪者に同情的であった。城島治部右衛門(宇久島へ)、樋口市郎兵衛(三井楽浜久留へ)、田代万助(大宝村へ)、田代次八(小川幾山村へ)、向井弥兵衛(崎山村へ)、志波原羽右衛門(久賀村へ)、多々良久右衛門(三井楽海津村へ)、多々良源太夫(岐存松山村へ)、木下与惣兵衛(小川磯山村へ)の九人である。流人とは言え、武士としての面目を保つたというところで、当初より同情的で、五島大

和守は配所に送致する時に馬を与え、妻女を持つことも許可し、九人の内、妻を迎えたのは七人で城島治部右衛門は男一人、向井弥兵衛は子なし、志波原羽右衛門は女児二人、田代次八は男児二人、田代万助は女児一人、樋口市郎兵衛は男子一人、木下与惣兵衛は女子一人をもうけた。五島にあること九年、宝永九年(一七八〇)八月十九日、江戸より深堀義士の赦免の連絡が

あり、流人を長崎まで送致するようにとの達しがあり、深堀方は伊王島漁船二隻を仕立て五島へと向かわせた。五島にては、長崎屋代八尾太左衛門は平石利兵衛に九人を十月六日までに

福江に集めるよう通知した。こうして志波原羽右衛門は九月二十八日、多々良源太夫は十月朔日、木下与惣兵衛は四日、田代次八、樋口市郎兵衛、田代万助は三日、城島治部右衛門、向井

弥兵衛は四日、それぞれ配所より呼び戻された。

〈新着図書のご案内〉



	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	難問の多い料理店	結城 真一郎	集英社
	言霊の幸う国で	李 琴峰	筑摩書房
	かむ・飲み込むが難しい人のごはん	藤谷 順子	講談社
	ひとりでカラカサさしてゆく	江國 香織	新潮社
	一気に読める源氏物語	岡本 梨奈	幻冬舎
	下町サイキック	吉本 ばなな	河出書房新社
	丹波哲郎見事な生涯	野村 進	講談社
	コレステロールは下げるな	和田 秀樹	幻冬舎
	ネガティブな自分のゆるし方	大野 萌子	クロスメディア・パブリッシング
	おうちゆるモンテッソーリのあそびと言葉がけ	菅原 陵子	実務教育出版
	素朴な味わいを楽しむ陶芸基本のテクニック	柚木 寿雄	メイツユニバーサルコンテンツ
	マンガでわかる数理最適化	中山 舜民	オーム社
	スパイス&ハーブの教科書	水野 仁輔	ナツメ社
	全員犯人、だけど被害者、しかも探偵	下村 敦史	幻冬舎
	左太夫伝	佐々木 譲	毎日新聞出版
	私はこうして勉強にハマった	ビリギャル本人さやか	サンクチュアリ出版
	写真が語る満州国	太平洋戦争研究会	筑摩書房
	妻恋日記	岡本 さとる	祥伝社
	酔い待ち草	辻堂 魁	角川春樹事務所
わたしを離さないで	カズオ・イシグロ	早川書房	
歴史探偵忘れ残りの記	半藤 一利	文藝春秋	
児 童 図 書	世界のふしぎは、きっと誰かの仕事でできて	田丸 雅智	Gakken
	地図と図解でバッチリわかる日本の歴史おもしろ図鑑	—	昭文社
	オレンジウータン	前川 貴行	新日本出版社
	キャベたまたんていてんぐ山で七ふしぎ	三田村 信行	金の星社
	いちばん強いヤツはだれだ!?妖怪 VSUMA 〈魔物王〉超バトル図鑑	山口 敏太郎	永岡書店